

理念：器用には生きなくていい それぞれの信じる方へ咲きいるおくら

多機能型障がい児通所事業

### 人間関係・社会性

- ・歩行訓練（手繋ぎ、歩調を合わせる）
- ・ダンス・合奏・合唱

### 健康・生活

- ・外遊び
- ・歩行訓練
- ・食育
- ・ADLの確立

### 言語

#### コミュニケーション

- ・言語使用
- ・サインの使用

### 認知・行動

- ・他児の行動から自分の動きがわかる。
- ・危険認知を身に付ける歩行訓練
- ・指示に従える
- ・交渉をする

### 運動・感覚

- ・海、山、土、水を使った五感を刺激する遊び
- ・歩行訓練
- ・手指の感覚を鍛えるワーク

① 事業所名：おくらっこくらぶ

② 作成：令和5年4月1日

③ 法人理念

～器用には生きなくていいそれぞれの信じる方へ咲きいるおくら～

④ 支援方針

重度知的発達症の自閉症児の問題行動と向き合い感情のコントロールを行うと共にそれぞれの子どもの特長（強み）を見つけ、ありのままの自分を表出しながら、他者と共に自立して生きられることを目指している。

⑤ 営業時間 9時～18時 ワーク、歩行訓練、調理、海、山登り

⑥ 送迎あり

⑦ おくらの花の支援プログラムを個々の発達段階に応じて個別支援計画の作成を行う。

歩行訓練等の集団プログラムと個別に応じたプログラムをバランスよく行う。

⑧ 家族支援について

病院への通院や家庭での療育方法、部屋の配置など、指導員が出かけていき、実際に療育をして見せることで家族間で感情のコントロールができ、本人が主体的に生きられるよう支援している。

⑨ 移行支援について

当事業所内にて他児の手伝いができるほど社会性が身につく、他害などの問題行動がなくなってきた児童は、様々なタイプのいる集団療育の事業所を保護者と共に探し、週1回ずつから徐々に慣らし移行していく。また、高校生になると就労支援事業所や生活介護事業所の情報提供を行い、保護者と共に見学に行く。心配なく利用の移行がスムーズにできるように、年単位で関わっていく。また、行先の事業所の作業などを当事業所で同じように行ったり、生活の流れを合わせたりすることで混乱なく移行できるよう手厚く行っている。

⑩ 地域支援、地域連携

歩行訓練を毎日行い、夏は毎日地元の海に行くことで地域の方々と挨拶を交わしたり、動物に餌をあげる体験をさせてもらったり深く関わっている。また、年に1度は秋祭りを行い、地域住民、就労支援事業所卒業生などとの交流を行っている。

⑪ 職員の質の向上

毎月内部研修を行い、外部研修への参加費や交通費は法人から支払っている。多くの研修を積んでもらうよう、情報の提供やzoom研修では場所や機器の貸し出しなど前向きに行っている。また、職員同士が忌憚なく意見を言い合える関係づくりを日頃から行っている。

⑫ 主な行事等

調理体験・山登り・海水浴・飯盒炊飯・避難訓練・秋祭り・障がい者アート展参加等

お出かけ体験（年2回）

